

大松照政 | おおまつ・てるまさ

株式会社村田製作所 技術・事業開発本部 新規技術センター 新規事業技術開発部 エンジニア



大松照政

—
2021年度
大学院工学科学研究科
博士後期課程
物質・材料化学専攻 修了



Fig.1—— 仕事の様子



Fig.2—— 松ヶ崎祭（大学祭）実行委員会での活動

留学や課外活動に積極的に挑戦

幼いころから祖父の影響により化学に興味をもっており、学生の町として憧れていた京都にある京都工芸繊維大学に進学しました。

学生時代は松ヶ崎祭実行委員会に所属し、松ヶ崎祭（大学祭）の企画・運営を行いました。デザイン・建築学課程の学生による独創的な手作り模擬店の制作を目的にしたり、松ヶ崎祭の運営のために大学担当者や外部の企業とのやりとりを行ったりした経験から、高校時代にはない楽しさや、やりがいを感じることができました。

学業面では、博士前期課程1年次に行った14ヵ月間の留学が印象的でした。大学からの厚いサポートもあり、給付型の奨学金を受けることができました。私が所属していた研究室の先生に、留学先としてスイス連邦工科大学ローザンヌ校を紹介していただき、その大学のHubert Girault研究室で研究活動を行いました。研究活動やルームシェアでは、日本では接することのなかった人々との交流が自分の価値観を大きく広げてくれました。また、世界と渡り合うことのできる研究者となるためには、博士後期課程へ進学するべきではないかと考えるきっかけともなりました。

時流をつかみ、社会が求める製品・技術を開発

現在は株式会社村田製作所の新規技術センターで業務を行っています。

社会に貢献することのできる新たな製品や技術の開発を行うことが主なミッションです。そのために社会のトレンドを理解し、会社として貢献できる分野において必要不可欠な製品や技術を開発していこうとしています。学生時代に社会に対する自分の研究の立場を明確にし、研究を進めていく訓練を行ったことが、仕事において社

会のトレンドの理解やトレンドに連なる技術の開発を行うにあたり、非常に生きています。

学部の4年次から博士後期課程までの7年間に及ぶ研究室生活では、論文を読み解釈すること、研究を立案・実行し、解釈した内容を学会や論文で発表することを経験しました。これらの経験は学術的な理解を深めるのみならず、コミュニケーション力なども実践的に鍛えることができ、今の社会人生活を直接的に支える能力となっています。

大学で鍛えた能力にさらに磨きをかけ、人類の可能性をさらに広げることのできるような製品・技術を世に送り出すことを仕事の目標にしています。

チャンスを逃さず、可能性を広げてほしい

大学時代にしかできないことがきっとあります。自分にとっては、松ヶ崎祭実行委員会での経験や、思いきり研究活動に専念した研究室生活がそうでした。日々の講義や学業にしっかり向き合うことが前提ですが（自分はこの点に反省があります。あのときのあの講義をしっかり理解できていれば……）、今しかできないことは何かを見つめ、そこに向かっていくことで、豊かな大学生活を送ることができますし、自分の可能性を広げていくこともできると思います。

今までの自分からは想像できなかった経験を積むチャンスが京都工芸繊維大学にはあります。たくさんのチャレンジを行い、失敗と成功をくり返すことができます。大学内外の友人、教員など、多くの人と積極的に関わることで、たくさんのチャンスを得ることができます。自分から飛び込んでも、提案されたことをとにかくやってみるのもいいでしょう。自分のコンフォートゾーンから飛び出す勇氣をもって、一つでも何かチャレンジしたと思える経験を、大学生活を通じて行ってほしいです。

理解力や実行力、コミュニケーション力など
社会で必須となるスキルが研究活動で磨かれた